

# 資料編

用語解説 .....	75
策定委員会名簿 .....	77
策定の経緯 .....	78
ワークショップまとめ .....	80
アンケート結果 .....	82

## <用語解説>

<p>あいサポーター (障がい者) (サポーター)</p>	<p>障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする人。特別な技術などを習得して支援するのではなく、日常生活のなかで障がいのある方が困っている時などに、ちょっとした手助けを行う意欲のある方なら誰でもなることができる。「あいサポーター研修」を修了すると「あいサポートバッジ」が交付される。</p>
<p>アウトリーチ</p>	<p>支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対し、行政や支援機関等が積極的に働きかけて情報・支援を届けること。</p>
<p>NPO</p>	<p>Non Profit Organizationの略で、民間や一般の市民により自主的に構成された営利を目的としない活動を行う民間の組織のこと。特定非営利活動促進法(NPO法)に基づき設立された組織を「NPO法人」という。</p>
<p>グループワーク</p>	<p>参加者を数人ずつのグループに分け、あらかじめ設けられたテーマに沿ったディスカッションをした上で最終的な結論や成果物を発表させるという形式で行う。採用選考や研修で実施される。</p>
<p>介護支援専門員 (ケアマネジャー)</p>	<p>介護保険サービスの利用者やその家族からの相談に応じ、その心身の状況やニーズを適切に把握し、利用者にふさわしい介護サービス計画(ケアプラン)を作成するとともに、介護保険サービスが的確に利用できるように調整を行い、要介護者などが自立した日常生活を営むうえで必要な援助を行う専門職。</p>
<p>ゲートキーパー</p>	<p>悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人(命の門番)。悩みを抱えている人は、混乱して自ら助けを求めることが難しい状況に陥ることがあるので、そのような時に話を聴き、相談窓口や医療機関につなげ、自死に傾くことにストップをかけるゲートキーパーの役割は重要。</p>
<p>CSW (コミュニティ) (ソーシャル) (ワーカー)</p>	<p>地域において支援を必要とする人の生活圏や人間関係など、環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする活動やサービスを発見して支援を必要とする人に結びつけ、また、新たなサービスの開発や公的制度との関係の調整などを行う専門職。</p>
<p>シェルター</p>	<p>災害のほか、失業などにより緊急的な住居の必要性に対応するため、ホテルなどを活用した一時避難所のこと。また、暴力から逃れた女性のための緊急一時避難場所や虐待などにより家庭にいられない子どもの一時避難所のこと。</p>
<p>持続可能な まちづくり</p>	<p>経済的な発展と、福祉などの生活の質、良好な生活環境などをあわせて維持していくことを目指すまちづくり。</p>
<p>重層的支援体制</p>	<p>地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制。「相談支援(属性を問わない相談支援、多機関協働による支援、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業)、参加支援及び地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する仕組みを重層的支援体制整備事業という。</p>
<p>生活支援 コーディネーター (地域支え合い推進員)</p>	<p>高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を担う人。</p>

セーフティネット	生活上の困難や貧困な状況となった時に生活を支える仕組みや制度のことを意味する。第一のセーフティネットとして社会保険制度が、第二のセーフティネットとして低所得者対策が、そして生活保護制度は最後（第三）のセーフティネットとして位置づけられている。
ソーシャルワーク	社会福祉の制度などのもとで、人々が社会生活上の課題を自ら解決し、豊かな暮らしを可能にすることを旨とするために、福祉の専門技術や知識をもつソーシャルワーカーによって展開される実践活動及び援助技術の総称。
地域共生社会	地域の多様な人と資源が、世代や分野を超えてつながり、全ての人が共に創っていく地域社会のこと。
地域包括ケアシステム	団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される体制のこと。
認知症カフェ	認知症の人やその家族、専門職や地域の人など誰でも参加でき、相互に情報を共有し、お互いを理解し合う集いの場。和やかな雰囲気の中、参加者同士で茶話会や体操、創作活動等のレクリエーションなどを行っている。
認知症サポーター	市町村を中心に実施されている認知症サポーター養成講座の受講者で、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域において（できる範囲で）認知症の人や家族を支援する人。
ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。土地の地形や地盤の特徴をもとに、被害想定区域、避難経路や避難場所、防災関係施設の位置などの防災地理情報が地図上に図示されている。
8050世帯	ひきこもりの長期化、高齢化から引き起こされる社会問題。主に50代前後のひきこもりの子どもを、80代前後の親が養っている状態を指し、経済難からくる生活の困窮や当事者の社会的孤立、病気や介護といったことが問題視されている。
避難行動要支援者名簿	災害時に自ら避難することが困難な、避難行動要支援者（要介護者、障がい者、ひとり暮らし高齢者等）を掲載した名簿。過去の大災害により、多くの高齢者や障がい者が犠牲となった教訓を今後に生かすため、災害対策基本法が改正され、災害時の避難支援や安否確認のための基礎とする名簿を作成することが市町村に義務付けられている。
フレイル	加齢により心身が老い衰えた状態のことで、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味する。早く介入して対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性があるが、高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、様々な合併症を引き起こす危険がある。
ヘルプマーク	内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など。援助や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい方が身に付けることで、周囲に援助や配慮が必要であることを知らせるためのマーク。
ライフステージ	人の一生のうち、年代にともない変化していく段階の事をいい、乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、老年期等に分けられる。
ワークショップ	参加者全員で共同作業をしながら課題をクリアしていくため、自主的に参加する主体性を重視した参加・体験型講習会。

### 第3次 大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画（策定委員）

#### ◆策定委員会

区分	所属機関	役職	氏名
学識経験者	島根大学	准教授	加川 充浩
医療関係	大田市医師会	理事	生越 英二
保健関係	島根県県央保健所	総務保健部長	竹森 順子
福祉（高齢者）関係	大田市介護サービス事業者協議会	監事	田辺 智子
福祉（障がい者）関係	障がい者地域生活支援センターせいふう	センター長	木挽 直美
	大田市障がい者関係団体連絡協議会	会長	馬庭 英士
福祉（子育て）関係	大田市保育研究会	副会長	吉村 久美
地域福祉関係	大田市社会福祉協議会	会長	西村 俊二
	大田市社会福祉協議会	理事	泉原 省三
	大田市社会福祉協議会	理事	寺本 功子
	大田市民生児童委員協議会	副会長	宇谷 裕子
市長が認める者	大田市シニアクラブ連合会	事務局員	三代 郁子
	大田市自治会連合会	事務局長	安藤 彰浩
	大田市PTA連合会	副会長	谷口 志保
	大田市青年協議会	会長	安藤 孝文
	おおだふれあい会館	事務職員	高野 明日菜
	ほっとスペース ゆきみーる	室長	高橋 賢史
	島根県大田地区保護司会	副会長	岡田 三史
	大田市成年後見支援センター	運営委員長	中井 洋輔

#### ◆オブザーバー

	松江保護観察所 処遇部門	統括保護観察官	笹岡 省三
--	--------------	---------	-------

#### ◆庁内検討会議

大田市健康福祉部	地域福祉課
	子育て支援課
	子ども家庭相談室
	健康増進課
	介護保険課
	地域包括支援センター
大田市社会福祉協議会	

#### ◆事務局（作業部会）

大田市健康福祉部	地域福祉課
大田市社会福祉協議会	

## ■「第3次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定の経緯

### ◎策定スケジュール（令和2年度）

実施日	実施項目	内 容
令和2年 5月27日（水）	第1回庁内検討会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の概要と策定体制及びスケジュールについて</li> <li>・現行計画の検証について</li> </ul>
7月2日（木）	第2回庁内検討会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行計画の検証結果について</li> <li>・アンケート調査の内容について</li> <li>・第1回計画策定委員会の開催について</li> </ul>
7月17日（金）	第1回計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉計画・地域福祉活動計画について</li> <li>・第3次計画策定にかかる年間計画について</li> <li>・現行計画の効果検証について</li> <li>・アンケート内容について</li> </ul>
8月1日～31日	市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵送による配布・回収</li> </ul>
8月25日 ～9月28日	事業者・地域団体ヒアリング (ヒアリング先は別紙)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の取組み状況</li> <li>・課題</li> </ul>
9月25日（金） 10月2日（金）	ワークショップ開催 (大田会場、仁摩会場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区での取組み状況と課題について</li> <li>・第2次計画における市社協の実施事業への意見</li> </ul>
10月12日（月）	第3回庁内検討会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次計画の評価と分析について</li> <li>・市民アンケートについて</li> <li>・事業者ヒアリングについて</li> <li>・ワークショップについて</li> <li>・計画体系（案）について</li> <li>・計画全体の構成（案）について</li> <li>・第2回計画策定委員会の開催について</li> </ul>
10月27日（火）	第2回計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次計画の評価と分析について</li> <li>・市民アンケートについて</li> <li>・事業者ヒアリングについて</li> <li>・ワークショップについて</li> <li>・計画体系（案）について</li> <li>・計画全体の構成（案）について</li> <li>・アンケート結果について</li> </ul>
12月8日（火）	第4回庁内検討会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次計画の素案について</li> <li>・第3回計画策定委員会の開催について</li> </ul>
12月22日（火）	第3回計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回策定委員会からの変更・修正点</li> <li>・第3次計画のめざすべき方向性</li> <li>・大田市成年後見制度利用促進計画について</li> <li>・大田市地方再犯防止推進計画について</li> <li>・今後の予定について</li> </ul>
令和3年 2月12日～26日	パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次計画（案）</li> </ul>
3月9日（火）	関係者研修会 (14:00～16:00、 市民センター4階)	<p>内容：重層的支援体制整備事業と総合相談支援体制の構築について</p> <p>講師：島根大学人間科学部 准教授 加川充浩氏</p>

(別紙) 事業者・地域団体ヒアリング先一覧

分類	機関・団体名	訪問日
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大田市子育て支援団体連絡会</li> <li>○長久ほっとな会</li> <li>○久手子育て育てられサロン</li> <li>○五十猛ポケットクラブ</li> <li>○森のどんぐりクラブ</li> </ul>	令和2年9月11日
	ゆきみーる	令和2年9月16日
	あゆみ保育園	令和2年9月17日
	五十猛保育園	令和2年9月17日
障がい	亀の子サポートセンター	令和2年9月18日
	地域活動支援センターのほほん	令和2年9月18日
	はとぼっぼ	令和2年9月18日
	大田市身体障がい者福祉協会	令和2年10月21日
高齢	大田市シニアクラブ連合会	令和2年9月17日
	サンデイズ双葉園	令和2年9月17日
	大田市社会福祉事業団	令和2年9月 4日
地域	大田市民生児童委員協議会	令和2年9月 7日
	川合町自主防災会協議会	令和2年9月11日
	波根地区社会福祉協議会	令和2年9月 9日
	大屋地区社会福祉協議会	令和2年9月29日
健康	大田市総合体育館	令和2年9月10日
	大代町 きずなグループ	令和2年9月15日
その他	大田地区保護司会	令和2年8月31日
	大田市成年後見支援センター	令和2年8月25日

## ■地区社会福祉協議会ワークショップにより出された意見

### ◎令和2年度地区社協連絡会議

- <大田会場①> 令和2年9月25日(金) 10:00 大田市民センター4階
- <大田会場②> 令和2年9月25日(金) 14:00 大田市民センター4階
- <仁摩会場> 令和2年10月2日(金) 13:30 仁万まちづくりセンター2階

#### 1. 各地区での状況について

##### <地区社協の取組み状況>

地域の行事に地域住民が積極的に参加し、取組みへの関心の高まりを感じる。新たな協議体などの体制づくりが少しずつ進んでおり、地区社協も支援や協力を行っている。

生活支援に関する取組みでは移動支援に関する取組みや検討が進んでいる。

##### <課題や要望>

- ◇地域での取組みを進めるうえで特定の人に負担が集中している。地域内の組織団体も後継者不足で活動の継続が困難になってきている。リーダーや人材の確保・育成が今後の大きな課題である。
- ◇新たな取組みには計画の段階から情報提供など一緒に協議参加して欲しい。
- ◇世帯減少により会費や寄付金の収入が減少しており、事業実施への財源確保に影響が生じてきている。
- ◇移動支援の取組みは地域だけでなく、市や関係機関などが一緒になって、市全体の課題として考えていく必要がある。

#### 2. 第2次計画における市社協の実施事業へのご意見

##### ①研修事業について

##### <成果と感ずること>

- ◇地域福祉を推進していく立場にある住民との関わりが深まり「やらされている」意識から取組みへの理解へ変わってきていると感じる。
- ◇地域生活課題についての協議や他地区での取組みを知るなど、学ぶ機会、協議の場としての役割を果たしており、今後も継続した実施が必要。
- ◇単発開催ではなく年間を通して複数回の実施も必要になってくる。

##### <課題や要望>

- ◇人づくり、人材の確保の問題に結びつくような研修が必要。身近な生活での課題を基にステップアップしていくような内容が良い。
- ◇肩書のある者のみを対象とした研修だけではなく広く住民が参加できるような研修プログラムが必要。

## ②助成事業について

### <成果と感ずるところ>

- ◇新規事業に取り組むには財源の確保が必要になり、特に移動支援事業は助成事業があり助かる。
- ◇地区社協への助成金は地区の裁量で執行でき、加算方式の導入など使いやすい助成事業である。

### <課題や要望>

- ◇新しい取組みには情報不足や事務量の負担感、人的な問題などの課題もあり、申請まで至らない。
- ◇予算段階で計画していなかった事業に年度途中で取り組む必要が出た場合に対応してもらえる助成金があると心強い。

## 3. その他意見など

- ◇地区社協事務量について平常時は特に影響や負担感はないが新規事業などには負担を感じる。事務局人材確保の意味ではある程度の事務局費確保の必要がある。
- ◇まちづくりセンター内に事務局があることで、自主財源を確保できる地区社協とまちづくりセンターが協力し、一体的に地域の取組みを実施することができる。
- ◇市社協職員の地区担当制は地区の様子をよく知ってもらっており相談がしやすいので良いと感じている。
- ◇様々な事業や制度があるがチラシも別々にあり窓口の違いなども分かりにくく、情報を整理して周知方法も検討が必要と感じる。